

14.5-29

調査報告第九十五號 (昭和十年四月十五日)

パレスタインの近情  
シリアの近情  
希臘及近東地方見聞雜錄

横濱正金銀行頭取席調査課



始



目次

一、パレスタインの近情……………一頁

農業……………二

製造工業……………四

鑛業……………五

Building Activity……………五

Haifa 港の新装……………六

通貨流通高……………七

産業資本……………八

財政……………八

貿易……………九

輸入超過の問題……………一四

貸銀の問題……………一六

パレスタインの繁榮……………一七

横濱正金銀行寄贈本



パレスタインと日本……………一八

二、シリアの近情……………二一

財 政……………二二

關 税……………二四

通貨流通高及幣制……………二五

船 舶 統 計……………二八

農 業 穀類、棉花、Vegetables, Olive、果實類、牧畜……………二九

製造工業 製絲工業、製織工業、製油業、石鹼工業、アルコール、  
ビール、燐寸、食糧品、皮革、セメント工業……………三二

貿 易 貿易統計……………三七

Textilesの輸入と日本……………四八

通 過 貿 易……………五三

貿易の逆調……………五四

三、希臘及近東地方見聞雜錄……………五七

希 臘……………五七

Rhodes 島……………六二

Cyprus……………六三

Palestine……………六四

Syria……………七〇

14.5-29

### パレスタインの近情

昭和九年十月

アレキサンドリア出張所報告

從來吾々の Palestine に對する興味は基督教の聖地 Jerusalem の存在にのみあつた。然るに今、同國は此の世界的不景氣の内に、China を知らない國、失業者の存在しない國として俄かなる經濟的擡頭は著しく一般の注目を惹くに至つた。之れが本邦との關係に於ては亦た有力なる市場として同國向輸出は最近激増するに至つた。以下同地最近の經濟事情一般を簡單に辿つて御參考に供します。

今日の Palestine 經濟的繁榮の最も重要なる原因として擧げらるゝものは猶太人の移民である。産業の擴大商取引の活況及輸入の激増と總てが之れと關聯して考へられてゐる。

一九三三年度の移民は四萬人と概算せられてゐるが（因に一九三一年十一月十八日國勢調査當時猶太人人口十七萬四千五百人、現在人口三十萬乃至三十五萬と推定、Palestine 總人口現在百十萬乃至百二十萬と推定）其大部分は獨逸を追はれた German Jews であつた。彼等の多くは獨逸に於ける有力者であつたので、彼等が Private Capital として持參した Cash, Industrial machinery, apparatus の高は極めて巨額に達したことが政廳に依て發表されてゐる。彼等の及ぼした經濟的影響を大體次の通り要約することが出來やう。

- 一、産業資本並に Skilled Labour の供給による国内産業の隆盛
  - 二、富裕なる人口増加による購買力の向上
  - 三、特に Building activity を招来せること
  - 四、一般的輸入の増加、之れに附随して關稅增收による歳入の激増
- 移民の問題は再び後に觸れることとして、一先以上の前提を置いて、以下經濟各部門に互り、統計を基にして之れを一瞥しやう。

### 農 業

大戰前の Palestine は全くの農業國であつて一般製造工業は最近に勃興して來たのであるが、未だその規模は大したものではないので、今日と雖も農業が壓倒的に同國の重要産業たるに變りはない。乍然此れとても多くは國內の需要をすら充し得ないことは少からざる農産品を輸入してゐることで分る。此の間にあつて同國の有力なる輸出商品として今後も益其の發展の豫想せらるゝは Citrus fruits の栽培、特に Orange Plantation である。Orange の輸出高は實に Palestine 總輸出高の七五%以上に當る。久しき將來は知らず、今後共、差當り輸出は Orange に頼る外はない、從て Orange に對する關心は大したものである。以下少しく Orange 産業の統計を調べやう。

(Dunums = 1,000 sq. metres)

植付段別	1932年		1933年	
	Unit 1,000 Cases	Unit 1,000 P. 磅	Unit 1,000 Cases	Unit 1,000 P. 磅
British	2,493	1,207	3,037	1,405
Germany	661	314	739	345
Holland	49	24	83	39
Rumania	99	49	73	35
Denmark	52	26	72	34
Sweden	29	13	46	20
Norway	16	8	25	12
Canada	7	3	21	9
Others	118	57	103	50
Total	3,524	1,701	4,199	1,949

一九三三年末 Palestine 政廳は The Citrus Fruit Advertisement ordinance を布告、民間と協力し

て新販路の開拓に大童である。幸に同國の Orange は他に類なき良質で、Syria 其他で之を試みたけれども、旨く行かないといふ。只だ問題は如斯 MONOCULTURE に一國の輸出貿易が依據するは極めて危険だといふ點で、これは識者の間に夙に考へられてゐることである。

其他一般の農産品に付ては多く言ふべきことがない。一九三三年度に於ては穀類の不作の爲め、近年にない巨額の輸入があつた。其他 olive-oil 及 wine も例年通り若干輸出はされたが問題にする金額ではなす。

## 製造工業

次に主な製造工業を列挙する。

**Soap Industry** 豊富に Olive の生産される關係から Soap industry は極めて盛んで、一時は輸出も年二十萬磅以上に達してゐたが、最近 Egypt の關稅引上で急激に減退するに至つた。

**Cement Industry** 之れは Building activity から當然有利な條件の下にあつて景氣が好い。一九三三年度の生産高十三萬五千噸といひ、内僅かは輸出されてゐる、一方輸入もあるが（一九三三年度四萬噸弱）高率關稅が之れを保護してゐる。

此外、Textile, Tobacco, Wine, Artificial teeth, Match Leather 其他工業が存在し、或者は若干の輸

出をしてゐるが、殆ど全部が Local Demand を當にしたもので大規模のものはない。

政廳の報告によれば一九三三年度新たに Hosiery, Cement pipes and blocks, bricks and tiles, electric fittings, metal goods, chocolate and sweets, chemicals and drugs 等の多數の小工場が設立せられてゐる由であるが、之等はすべて搖籃時代に屬し、凡そ Palestine の製造工業は未だ全く未知數の域にありと云はざるを得ない。

## 鑛業

此れは最近二三年の仕事であるが、政府と特約の下に Palestine Potash Co. の手によつて Potash 其他 Mineral salt が採取せられ非常に好成績と傳へられてゐる。因に Dead sea を中心として同地方には此外幾多の Mineral resource があるといふが、特に政治上の理由から餘り手を下してゐない。

## Building Activity

今 Palestine で尤も隆盛なる事業は建築業である。潮のやうに流れ込んだ移民を收容するが爲めに、主要都市近郊の沙漠は、急速の勢で住宅地域となりつゝある。之れが目下同國に於て勞働力の不足、賃銀の高騰、其他の形で景氣を持上げてゐる尤も有力なる因子と見られてゐる。次の統計は一斑の概

念を與ふるものである。

建築物に對する投資高 (單位千パレスタイン磅)				
一九二九—三三各年度	一、七四一	二、四四八	二、七二〇	二、九四五
建築物用材料輸入高 (單位千パレスタイン磅)				
一九二九—三三各年度	四七七	四五六	三九二	四九四
				九一一

因に一九三三年度輸入高九一、〇〇〇磅といふことは、總輸入高の一〇%近くに相當する。この外建築事業に附隨的の國內小諸事業の新に多數勃興せることは前述の通りである。この調子で尙、同地の Rent は一九三三年度に於ては前年度より二〇%乃至四〇%の騰貴が報告せられてゐる。

### Haifa 港の新装

Palestine の主要貿易港は Jaffa 及 Haifa であつたが、設備極めて悪く冬季風波の荒い時は屢々荷揚不能の場合があつた。今度の Haifa 港の新設備は始めて同國に良港を與へたものとして一九三三年末盛大に落成式が行はれた。

寄港せる船舶噸數年別表

	1,000 Ton	
Year	Jaffa	Haifa

1922	624	705
1923	1,031	903
1924	1,107	940
1925	1,568	1,194
1926	1,297	1,036
1927	1,138	1,009
1928	1,290	1,132
1929	1,525	1,286
1930	1,425	1,341
1931	1,333	1,397
1932	1,460	1,761
1933	2,080	2,719

斯くて、今後の Haifa 港は大いに期待されてゐるのであるが、之れは同國のみならず、近東に於ける尤も有利の地點を利用して、奥地に對する transit port としての活動を企圖してゐる。

### 通貨流通高

(單位千パレスタイン磅)

	(圖) One Palestine Pounds = 1,000 mils = £1.-/-)	
	(普通 L.P. と略される佛語 Livre Palestinienne (省略))	
1930年	Mar. 31	2,197
1931年	4	2,369

1932年	2,408
1933年	2,831
1934年	4,069
Apr. 30	4,054
May 31	4,139
June 30	4,219

即ち上掲の通り一九三四年に入りて、通貨流通高は四〇%以上の急激なる増加を見た。乍然當國に於ては特に Inflation 政策の採られた形跡はないので、之れは移民に依て齎らされた國富の増加及之れを動因とする經濟界の實需に對應した自然的増加と見られる。

### 産業資本

政廳の公表する處に據れば一九三三年度の新規投資高は六十三萬三千磅に達し、之れを一九三二年度に比すれば二十六萬八千磅の増加である。此外 Private Investment も極めて巨額に達した。更に投資先を探してゐる銀行預金の高は一九三三年三月末の七百萬磅から一九三四年同日には千二百五十萬磅に激増したと公表されてゐる。之等資金に對しては銀行は利息を拂つてゐない。

### 財政

1933年度	入	3,985,493 L.P.
	出	2,704,856
	剰餘金	1,280,637
	繰越剰餘金	1,230,295
	累計剰餘金	2,510,932

上のやうな巨額の剰餘金を生じた理由として政府は次のやうに説明してゐる。人口増加による輸入増加に基く關稅の増收、及人口増加に基く Building activity に伴つた Land Tax 其他關係稅金の増收が之れである。近年農産物の不作の爲め特に農民に對する課稅は若干引下られたのであるが何等の影響を及ぼさなかつた、更に一九三四年七月末の累計剰餘金は三百三十一萬四千七百七十七磅に達したと發表された。

### 貿易

(輸出入統計は別紙の通り、商品別國別に作成した、参照せられたし)

別表所載の通り、一九三三年度の輸入は約四〇%の激増をした、商品別には殆ど全部が若干の増加をみせてはゐるが、特に建築材料、穀類、機械類は前年度に比し二倍以上に達し、更に移民の携帯せる機械、機具、私用品は五十萬磅以上の増加を見た。

輸出の増加率は極く少く、Orange の輸出増加で若干の増加があつた丈け、從來第二の輸出品であ



つた Soap は激減した。

因に次表中 Egypt 及 Syria よりの輸入は、前者は九〇%後者は三〇%は Foreign Origin Goods と推定せられる。此の内日本品特に Textiles は少からざる部分を占めるものと見らる。

過去五年間輸出入統計 (単位千パウンド)

IMPORTS	1929 年	1930 年	1931 年	1932 年	1933 年
Import for Consumption	7,166	6,985	5,940	7,768	11,123
Import in Transit	265	155	177	196	187
Import of Specie	12	3	2	155	145
	7,444	7,143	6,119	8,120	11,456
EXPORTS	1929 年	1930 年	1931 年	1932 年	1933 年
Export of Palestine Produce	1544	1896	1572	2381	2591
Export in Transit	265	155	177	196	187
Re-Export of Foreign Goods	197	182	251	243	319
Export of Specie	212	1	226	1505	841
	2230	2235	2227	4327	3938

主要輸出品 (単位千パウンド)

ARTICLES	1932 年	1933 年
Industrial Machinery	175	466
Wheat	182	448
Cotton Piece Goods	382	410
Apparel of All Sorts	291	386
Motor Cars	164	370
Wheat Flour	190	264
Wood & Timber for Building	183	253
Iron Bars, Angles, Rods and Girders	66	240
Silk Tissues	174	231
Iron Tubes, Pipes and Fittings	118	214
Woolen Tissues	152	201
Seeds and Nuts for Pressing Oils	115	201
Sugar	132	141
Rice	150	132
Animals for Slaughter	162	164
Wood Prepared for Citrus Fruits Cases	176	145
Benzine	183	177
Kerosene	79	115
Iraq Petroleum Co. Stores	671	694
Personal Effects	111	437
Military Stores	213	343

Government Stores	335	325
Others	3,364	4,766
	7,768	11,123

國別輸入高 (單位千ハレスタイン磅)

COUNTRY CONSIGNED FROM	1932 年	1933 年	Percentage 1933 年
Britain	1,522	1,949	17.53
Egypt	1,165	1,208	10.86
Germany	775	1,193	10.73
Syria	813	942	8.47
U. S. A.	520	838	7.54
Romania	518	581	5.23
France	339	459	4.13
British Possessions	217	452	4.07
Turkey	201	364	3.27
Italy	292	357	3.21
Japan	176	349	3.15
Belgium	179	346	3.12
Czechoslovakia	179	312	2.81
Poland	101	289	2.60
Austria	94	186	1.68

Russia	99	157	1.42
Sweden	77	122	1.10
Others	501	1,019	9.08
	7,768	11,123	100.0%

主要輸出品 (單位千ハレスタイン磅)

ARTICLES	1932 年	1933 年
Orange	1,701	1,949
Grape-Fruit	79	129
Fruit Juice & Syrup	4	6
Soap	108	79
Wearing Apparel of All Kinds	16	26
Oils (Olive etc.)	62	47
Wines	30	22
Artificial Teeth	13	23
Cement	22	14
Stockings	12	11
Others	334	285
	2,381	2,591

國別輸出高 (單位千パレスタイン磅)

COUNTRIES OF DESTINATION	1932 年	1933 年	1933 年 Percentage
British	1,342	1,559	60.17
Germany	332	373	14.42
Syria	229	212	8.22
British Possession	80	60	2.34
Egypt	128	71	2.77
Romania	54	40	1.57
Denmark	27	37	1.45
Others	189	239	9.06
	2,381	2,591	100.0%

以上で Palestine の各經濟部門を乍簡單統計的に辿つた。此を基礎に以下主なる二三問題を採上げ横斷的觀察をして御參考とします。

輸入超過の問題

次表の統計の通り、貿易尻は毎年赤バラであるが、之れは同國が一個の農業國としても自給自足するに足らず、製造工業は全く未發達なることを示すものである。

輸出入商品を解剖すると通次 (單位千パレスタイン磅)

輸入		輸出	
食料	原料	食料	原料
品	品	品	品
一九三二年	一九三三年	一九三二年	一九三三年
一、七八四	二、四二五	二、〇二五	二、二四六
五五六	八三六	四二	三一
三、九一〇	五、七四三	三一二	三〇六
一、五一六	二、一一七	一	七
七、七六六	一一、一二一	合計	二、三八〇
			二、五九〇

上表輸入の内、其他とは、政府軍隊の勘定、移民携帯品及 Iraq Petroleum Co. (之れは Iraq と Haifa 間に重油 Pipe 敷設を目的とする特殊會社) に關係するから一般貿易からは除外しやう。乍然尙且毎年此の膨大なる輸入超過をどうするのだらう。之れに對する決濟資金は次の手段に依るものと傳へられる。即ち移民の携帶金、海外 Zionists (猶太人の相互扶助を目的とする團體、世界各國の Jews に依り組織せる) の寄附金、及海外猶太人の送金が之れである。

此等の正確なる金額を知る方法はないが、殊に一九三三年度の如き大量移民の場合に於ては、其額の大きいことは想像に難くない。Sioniste の寄附金は Sionism の盛んになるに伴れ、毎年の寄附高は驚くべき巨額なりといふ。之れは Jews 特有の宗教心及び愛郷の念に出づるものであつて常人の窺知し得ないことである。投資先を見出し得ない銀行預金丈けでも現在千二百萬パレスティン磅に達してゐると傳へられることは、資金流入の一證左と考へられる。

如斯状態なので貿易尻決済には何等の不安はない、乍然此の Unfavorable Balance of Trade は、將來の Palestine の不安たるべきことは既に明に指摘されてゐる。

又上述の如き移民流入の異常時なのであるから或程度の輸入超過は當然であらう。乍然輸入が原料及生産用商品に乏しく、概ね消費商品に偏せることは明かなる弱點である。加之、輸出は専ら Orange とし、Monoculture に依據、そして貿易尻は如斯特殊な Invisible Trade Balance に頼るが如きは明かに不健全なるものとして危惧されてゐる。

### 賃銀の問題

Palestine に於ける一般の Wages が非常に高率（例へば埃及と比較して二乃至三倍といふ）なることは屢々指摘されてゐる。之れは移民流入による勞働力の供給にも不拘、其以上の需要があるのであ

るから或程度迄は止むを得ないのであるが、乍然之れが必しも如斯事情に結果する一時的の現象とは見られてゐない所に難點がある。他日此の高率賃銀が settle down するに非れば到底隣接近東諸國の競争に堪えざるものとせられる。（尤も之は主として猶太人勞働者の話である。Arabs の賃銀は左程でもないが宗教其他の關係からあまり之を使傭せなす）

### パレスティンの繁榮

要約すれば Palestine 今日の繁榮は移民といふ異常事實に立脚する Jewish prosperity と云ふ外はない。或人は、之れを移民の繼續する間維持せらるゝ繁榮と云つた。兎も角も之れは Normal には極めて遠い現象と見なければならぬ。

今日の如き移民の流入は今回が始めてあつて、之れは何時までも繼續するものではない。從來の記録によれば移民は流入許りでなく流出したことも可成りある。

今日の Building activity の如きは近き將來に settle down すべきものである。以上に現はれてゐる數多の不健全なる經濟状態は何時かは、今日の繁榮に暗い影を投げるに違ひない。

此意味で目下勃興しつつある同國の製造工業は、大いに同國繁榮の將來を左右するものであらう。若し之れが well manage せられ賃銀を引下げ得れば、Balance of Trade は改善し得らるゝわけであ

る。極く最近 Silk 及 Rayon Goods の關稅引上があつた。同國の事情を考へれば今後とも其他商品の上に一層の保護政策を政府が採ることは豫期せねばならぬと確信する。

元來が Palestine は Egypt, Syria, Iraq の中間に位し、地勢上極めて便利の地位にある。従て英國は軍事上の意味から交通運輸其他の設備に銳意し、且つ將來も爲さざるを得ざる状態にあるといふ。Palestine としては大に之れを Profit するわけで Syria に代つて貿易通商の中心地たるべきことを近き將來に期待されてゐる。問題は Palestine の Jews が如何に現状を合理化し、その豊富な資本を活用するかにある。

### パレスティンと日本

兩國間の關係は全く本邦から同國向の輸出にある。之れは僅かに茲數年來の關係で特に一九三三年度より著しき増加を見た。乍然同國輸入總額の割合から見ると僅かに一九三三年度に於て三・一五%を占めるに過ぎないが、事實本邦商品は遙かに之れ以上輸入されてゐる。目下同地に於ける Silk 及 Rayon Goods の九〇%は邦品と傳へられる。之れは主として埃及からの再輸出にかゝる。最近に於ては Textiles の外群小雜貨の輸入も著しく増加するに至つた。屢本邦商社は出張員を同地方に派したのみならず當地に於ける出先商社は多くは同地に Agent を置いて販路擴張に努めてゐる。

只、既述の通りどうしても製造工業を發達させねばならぬ同國事情であり、且つは英國との關係から、今後恐らく嚴重なる保護政策を採るに至るべく、従て日本が現在以上に輸出を増加し得べきやは大に疑問である。

特に一九三五年度の日本の國際聯盟正式脱退後には何等かの本邦に不利な關稅改正が豫期せられ、既に外務當局は同國政廳と折衝を開始したと傳へらるゝ。

(アレキサンドリア出張所詰書記 藤崎義幸稿)

## シリアの近情

(Des Etats du Levant sous Mandat Francais の近情)

昭和九年十月

アレキサンドリア出張所報告

此處に Syria とは正確には Des Etats du Levant sous Mandat Francais 即 Levant に於ける佛蘭西の委任統治區域の意である。地理的には Syria は此統治區域の一部なのであるが、一般には統治區域全體を單に Syria と稱してゐる。以下 Syria とは一般の通稱を採つたものとせられたし。

日本に Syria の紹介せられたのは極最近のことのやうに思はれるが、本邦商品の販路としては既に六七年來頭角を現はしてゐたもので、之れは恐らく兩國間の取引が主として埃及の商人の手を経て營まれてゐた爲めと考へられる。然るに此一兩年來所謂 Syrian Merchants の渡日するもの極めて多く、阪神に establish するに至るもの數は相當に達して居る。

以下同國經濟諸般の最近事情を概括的に調べて御参考とします。追て組織的な調査は他日材料の整備した上作成の豫定であります。

御參考迄

Monetary units: One Lebano-Syrian Pounds = 100 Lebano-Syrian Piastres. Five Lebano Syrian Piastres は One

French Franc と Fix である。

L.S. は上記 Lebano-Syrian Pounds の略で正確には Livre Libano-Syrienne である。

### 財政

俗に Syria と言慣はされてゐるが、正確には Des Etats du Levant sous Mandat Français といふのが、République Syrienne, République Libanaise, Gouvernement de Lattaquié, Sandjak d'Alexandrette, Gouvernement du Djebel-Druze の五政治區劃に分割せられてゐる。固より之等は委任統治國佛蘭西の任命した統督（正確には Le Haut-Commissaire）の下に統轄せられてゐるが各區劃には廣範の自治が認められ、各々獨立の財政を營む。

如斯五政治區劃は別個の財政を持つが、軍備、國債、税關等國全體の共同利益に関するものは總督の下に集約的會計を營む。

#### 一九三三年に於ける各政治區劃の收支 （單位千シリア磅）

（括弧内一九三二年度）

	歳入	歳出
Republique Syrienne	5,361 (7,043)	5,777 (6,924)
Sandj d'Alexandrette	965 (1,088)	775 (895)
Gouv. du Djebel-Druze	236 (357)	242 (339)
Gouv. de Lattaquie	1,140 (987)	923 (888)
Republique Libanaise	3,583 (4,029)	3,526 (4,200)

11,285(13,504)                      11,243(13,246)

#### 一九三三年度各政治區劃の豫算（收支）

République Syrienne	6,932
Sandj d'Alexandrette	734
Gouv. du Djebel-Druze	273
Gouv. de Lattaquie	1,039
République Libanaise	4,533
	13,511

#### 一九三三年度に於ける中央會計の收支 （單位千シリア磅）

歳入	九,五二八(八,八五五)	括弧内一九三二年度
歳出	八,〇五六(八,四七六)	
但シ一九三三年度豫算(收支共)	八,四三〇	

#### 上記歳出の主なる用途如次

税關	一,〇五四
軍備	五,〇五六
公債償却	一,五〇三
	七,六一三

尙歳入の主たる財源は關稅收入にある、其の數字は關稅（p.24）に掲出した。

### 關 稅

一九三三年度に於ける主なる關稅改正次の如し。

引上げられたる分 小麥、大麥、裸麥、Maize、小麥粉等

糖類、澱粉、麵類、燐寸用箱、安全カミソリ、絹及人絹製品、煉瓦

引下げられたる分 動物性及植物性油の一部、牧畜用藥品

戻税を受くるもの Sweets (Confiserie) の輸出には使用せる砂糖に對する税金を拂戻す

輸出獎勵金制度 輸出 Orange 合格品に對し新設せられたり (別項果實類の項に掲出)

De Zones Franches の設置 (別項假置場制度の項に掲出)

通商取極をなせる國 Brazil 及勞農ソヴェット聯邦、

何れも最惠國條款を適用、但し Soviet への取極は Barter system を加味するものである。

#### 最近五ヶ年間關稅收入如次 (單位千シリア磅)

總收入	一九二九年	一〇、五九九	六二二
	一九三〇年	八、九八〇	六八〇
	一九三一年	九、一五九	三四五
			左の内再輸出に對する戻稅額

一九三二年	八、〇九四	一八八
一九三三年	九、三三四	一三五

關稅收入は如斯尤も重要な財源たるの外、關稅自體は他の諸國と同様に、國の産業を保護する目的の爲めに最も有力なる政策として利用せられ、一九三四年に入りて總督の要請の下に民間の各有力者を網羅して關稅に關する調査委員會が設けられた。頻々たる稅率の改正は政府が關稅に極めて keen たるの證左である。

### 通貨流通高及幣政

#### 通貨流通高 (單位千シリア磅)

一九三四年六月末	銀行券	一二、〇〇〇
	補助貨幣	一、八八八
	計	一三、八八八
一九三三年六月末		一三、九四五

一九三四年六月末に於ける銀行券發行準備如次

Or monnaie ou lingots en dépôt à Beyrouth	L.L.S.	Billets L.L.S.
Fonds d'Etat	500,000	en circulation 12,000,000
	1,042,514,85	



Dépôt obligatoire au Trésor Français	4.000.000	
Dépôt facultatif au Trésor Français	880.542,7375	
Valeurs sur l'Etat français ou garanties par l'Etat	5.576.942,4125	
français (en dépôt à la Banque de France)	12.000.000	12.000.000

Syria の現行貨幣制度は French Franc に Link する金爲替本位制であるから最も安定した Currency の一つである。之れは大戦後幾多の變遷の擧句であるが、簡單に其由來を辿りたす。

大戦中に於ける同國の通貨は Ottoman 帝國のものであつたが、獨乙側の疲弊と共に不換紙幣の濫發に陥り、從て Syria の通貨は支離滅裂になつて居た。次で大戦の終了と共に英國軍隊が駐屯するに至るや Ottoman Currency の法貨たるの地位を奪ひ、之れを National Bank of Egypt の銀行券に附與したのであるが (By Act of November 1918) 徒らに deflation を來せるのみで、通貨整頓の目的は達せられなかつた。次で一九一九年十一月に至り佛蘭西が英國に代り Syria を管理するに至つたのである。斯くて佛蘭西は La Banque de Syrie を發券銀行とし從來の La Banque Imperiale Ottomane に代らしめた。而して貨幣單位を Syrian Piastre, 100 Syrian Pistres を Syrian Pound とし且 One Syrian Piastre の價值を 0.20 franc (1. Sy. Pound = 20 Francs) と公定、この割合で無制限に同行 Paris 支店拂一覽拂手形と引換ふべきことを規定して茲に現行 Syrian Currency の基礎を立つるに至つた。

固より該銀行券には法貨たるの地位を與へ、發行準備は佛蘭西國庫の預金及佛蘭西公債による全額準備たるべきことを規定した。

次いで Lausanne 條約に基いて Syria が獨立國たるの地位を獲得し佛蘭西の委任統治國となるに及び、新たに新政府は一九二四年一月 Banque de Syrie (但この時 De Banque de Syrie et du Grand Liban と改稱) と新に協定して之れに前と同一の條件の下に發行權を附與した。爾來發行銀行の改稱に從ひ、貨幣の稱呼も Lebano-Syrian Piastre 又は Lebano Syrian Pounds とす。只此際發行準備の内容は次の通り細く改訂せられた。即、金貨、地金、海外正貨 Local commercial bills with three signatures, Import bills with two signatures (但最高 90 d/s) 佛蘭西國庫預金、公債及佛蘭西政府の保證ある有價證券等とする。

上記の Lebano-Syrian Money の外に Turkish Gold Pounds 及同時代の小額補助貨幣が未だに稍々流通してゐる。大都市に於ては之れは稀となつたのであるが Alep を中心とする北部地方及奥地に於ては新貨幣と共に昔の貨幣を使つてゐる。之れに付して政府は何等の干渉をしてゐない、從て又此等の地方に於ては取引の單位としても Turkish Gold Pounds を basis とすることが弘く行はれてゐる。之れと Libano-Syrian Money との比價は五五〇 I.S. Pistres = One Turkish Gold Pounds に公定されてゐる。此外 Beyrouth 其他商業都市に於ては French Francs を取引の單位とすることがある。乍

然以上何れの場合も貸借の決済に Libano-Syrian Currency を以てし得べきことはその法貨たることからして云ふ迄もなし。

Syria の主たる銀行 (支店を含む) Banque de Syrie et du Grand Liban, Banco di Roma, Banque Francaise de Syrie, Banque Misr Syrie Liban, Credit foncier d'Algerie et du Tunisie、此外に同國には多數の Private Bankers があつて Local の finance に勢力を持つてゐることは注目に値する。

### 船舶統計

#### 寄港せる船舶噸數統計

	Number	Tonnage (1,000 tons)
1929年	1,753	3,560
1930年	1,812	3,685
1931年	1,665	3,492
1932年	1,532	3,183
1933年	1,728	3,623

一九三三年に於て各港別寄港割合は Beyrouth 六五% Tripoli 一一% Alexandretta 一一%である。

#### 港別輸出入取扱高 (單位 1,000 tons)

	1932年	1933年
Beyrouth	463	485
Tripoli	136	143
Alexandretta	99	88
Lattaquieh	19	18

### 農業

一九三二年と同様、一九三三年も氣候の不順、特に雨量の不足で、一般農作物の收穫は不良であつた。因に一九三三年度 Levant の全耕作面積は百五萬 Hectares 前年度は百十三萬五千 Hectares である。主要農作物收穫事情次の通りである。

#### 穀類 (大麥小麥)

一九三三年度の植付面積七十七萬八千五百 Hectares 收穫高五十九萬九千四百 Tons 一九三二年度よりは約十一萬 Tons 增收であるが、一九三一年に比すれば未だ約十萬 Tons の減收である。乍然上記の通り穀類の植付面積は Levant 總耕作面積の $\frac{1}{2}$ を占め尤も重要作物である。此の内 Syria の産額尤も大、輸出は Palestine 向約二萬噸を算したが反面に三萬噸弱の輸入を見た。外に穀類としては Maize の産額四萬二千噸で一九三二年度に比すれば三萬二千噸の減收である。

## 棉花

植付面積八千二百二十五 Hectares (主として Syria Alep 附近及 Sandjak of Alexandretta にあり、Damascus に僅少) 收穫高九千四百 Quintals 餘、内約七五%は American Cotton、之れでも一九三二年度に比べれば四千 Quintals 見當の増收であるが、従前に比すれば降雨量の不足から極めて不成績であつた。然し一九三三年度は餘程の増收を期待されて居る。

Syria の棉花は大戦前は Baladi と稱する Native Cotton の植付に限られてゐたが、品質は極めて粗悪のものであつた。大戦後數年にして America Texas の Seeds を植始め今日に於ては七〇—八〇%が之れであつて品質も極めて良質のものとなるに至つた。Baladi を含めて過去數年間の全收穫高並輸出高統計如次、Crop 一九二九年乃至一九三二年夫々、二千八百九十、千六百八十、二千八百六十、六百 Tons 輸出一九二九年乃至三二年夫々、千四百四十五、二千二百十二、六百三十三、千二百五十九三三年度輸出三百八十 Tons (七萬一千シリア磅) 仕向地は主として英國及 Palestine である。棉花の栽培は今後とも發達の餘地ありとせられてゐるが、棉花そのものは國內消費も増加してゐるか之れを輸出品とすることは近い將來には望まれます。

## 煙草

植付面積三千八百十八 Hectares 收穫高一萬八千八百 Quintals 前年度二萬一千 Quintals 但しこ

の栽培は政府に依て生産制限が行れてゐる。葉煙草及製品の輸出約三百七十 tons 主として英米向。

## Vegetables (各種の豆類、馬鈴薯、玉葱、韭、etc.)

植付面積十三萬 Hectares 收穫百三十三萬 Quintals (前年度夫々十六萬八千 Hc. 百六十二萬 Qu.) 輸出高二萬三千八百 tons 金額四十萬三千シリア磅、主として佛蘭西及 Palestine 向。

## Olive

植付面積七萬六千 Hectares 收穫四十八萬 Quintals Syria を第一とし Liban に於ても栽培せられる。土耳其、埃及其他へ輸出四千六百 Tons 十一萬四千シリア磅に達した。

## 果實類

植付面積十萬一千 Hectares 收穫三百五十三萬 Quintals 主なる果實收穫高如次(單位千 Quintals) 葡萄二千四百九十四、柑橘類三百三十五 Banana 四十六、杏六十八、アマンド及ピスタツシ(Amandiers, Pistachiers) 百五十、無花果三百十五、水瓜、メロン百十一、而して果實輸出高九千五百 Tons 四十萬シリア磅(前年度一萬四千 tons、六十五萬シリア磅)。Levant の Orange は未だ品質 standardise され居らず、輸出には充分適しないといふ。政府は之れの助成手段として色々の方策を講じてゐるが、特に優秀品に對しては one case に付三十シリアピアスターの輸出獎勵金を交付して品質の向上を圖らしむるに至つた。民間に於ても Syndicate が出來て同様の目的の爲めに協力するに至つた。

### 牧畜

主なる家畜概数は次の通り (單位頭數)

	一九三三年末	一九三二年末
牛	二八一、〇〇〇	二六〇、〇〇〇
羊	一、九六二、〇〇〇	二、三二〇、〇〇〇
山羊	一、六三八、〇〇〇	一、〇七〇、〇〇〇
駱駝	一六〇、〇〇〇	一八二、〇〇〇
馬	六一、〇〇〇	四〇、〇〇〇
騾馬	二四、〇〇〇	一五、〇〇〇

輸出一萬四千頭 (二十八萬シリア磅) 駱駝を主とし仕向地 Palestine を殆ど全部とする。製革品の輸出三十九萬五千シリア磅米、英を主とす、羊毛の輸出六十二萬シリア磅主として北米及伊太利向。但し、輸入は輸出に比し極めて巨類に達す、即、家畜三十萬一千頭、百七十萬シリア磅山羊最も多く土耳其 Irak の輸出なり、製革輸入五十八萬シリア磅とす。

### 製造工業

#### 製絲工業

絹絲 一九三三年度に於ける繭の收穫高は百四十萬ポンドに激減 (一九三一年二百七十六萬ポンド 一九三二年百八十六萬二千) 内、國內の絹絲産業には八十六萬ポンドを使用したものと推定されてゐる。蠶業の行はるゝは Rep. Libanaise を主とする。之等不振の原因は生絲市價の下落及 Stock の停頓にあるが、又氣候の不順が桑樹に悪影響したこともその一に數へらるゝ。

生絲の輸出高六萬四千ポンド 二十一萬三千シリア磅内約六〇%は佛蘭西向、其他は埃及、パレスターン、Irak 等近接地方向である。

繭の輸出高は十六萬三千ポンド 十一萬二千シリア磅、之れは殆ど全部佛蘭西向である。

綿絲 綿の Ginning factory は一九三二年度の棉花收穫の不成績で、完全に操業したものは三、四の工場に過ぎなす。惹きて綿絲工業は新設の "Arida" 工場 (Tripoli) が活躍した外は振はず、其産額は國の需要の約四〇%を充してゐるが、因より之れは高率關稅の保護の下に於てある。

#### 製織工業 (Textiles)

Textile Industry は一九三二年の關稅引上後異常の活躍を見せ、依然たる日本商品の侵入にも不拘、一九三三年度も好成績を挙げ、特に Artificial Silk, Crêpe 及 Popeline に於て著しく、Palestine 始め近接諸國向輸出も四十四萬シリア磅見當に達した。生産地地方別生産高主なるもの次の如し。

	1933 年	1932 年 (單位 pce = piece, m = metres)
ALEP		
Silk, pure and mixed	177,000 pce	70,000 pce
Crêpe	163,000 m	20,000 m
Popelines	810,000 m	148,000 m
Miscellaneous Cotton Goods	41,000 pce	44,000 pce
DAMIAS		
Silk pure and mixed	76,850 pce	39,900 pce
Crêpe	125,000 pce	31,800 pce
Miscellaneous Cotton Goods	68,000 pce	30,800 pce
其他 Silk Goods	50,000 pce	45,000 pce
Achabani (特殊品)	13,500 pce	11,500 pce
HOMIOS		
Dina (Cotton Goods)	202,000 pce	174,000 pce
Hatta (Silk Goods)	66,000 pce	39,000 pce
(以上何れも Oriental 特殊品)		
BEYROUTH		
Silk, Natural	30,000 m.	

Hosiery の製造は主として家内工業として行はれ其産額次の如く推定せらる。Damas 一萬六千打  
Alep 六萬打、Beyrouth: 一萬打、此外編物工業として Damas の生産高約二萬五千 pieces 見當。

### 製油業

Olive を原料とする製油工場約十五の外 Tripoli, Lattaquieh, Alep, Damas の近在に多数の小規模の Presser あり、一九三三年度産額約七萬五千 Quintals (一九三二年六萬、一九三一年十二萬) 減收の原因は Olive の不作にある。輸出約二千六百 Quintals 四萬シリア磅のみ。

### 石鹼工業

近接諸國 Palestine Egypt の競争で振はなし。殊にその製法が舊式であることが Olive 油の減收と相俟つてその原因である。漸く最近 Beyrouth に新式工場が設立せられ良質のものを製造するに至つた。

一九三三年度輸出九三五 tons 十二萬六千シリア磅殆ど全部 Irak 向である。

### アルコール工業

關稅の引上を利用してアルコールの製産高は激増して二千噸に達し、殆ど國內の需要を自足するに至つた。

### ビール工業

近設にかゝる Beyrouth の "Grande Brasserie du Levant" は一九三三年四月來八千 Hectolitres を生産せり。更に目下 Brasserie Malerie Franco-Libanaise 設立中、一九三三年度のビール輸入高は二

萬六千 Hectolires に達したが、追々には自給自足するに至るべし、因に Levant の Barley は世界有数の良質なりと。

### 燐寸工業

燐寸製造は茲二三年の發達にかゝるも Beyrouth, Damas に有力なる三工場あり、既に國內需要以上の生産力を有す。

### 食糧品工業

麪類、Biscuits, Chocolate, Jam, Pickle 其他の食料品製造は新舊式工場多數あり、其輸出高亦た十萬六千シリア磅に達せり。

### 製革業

地方別 Tanning 頭數次の如し

	Alep	Damas	Liban
山	一七、六〇〇	四七、〇〇〇	一四、〇〇〇
羊	一六、〇〇〇	一六、五〇〇	
牛	一、七〇〇	一、八〇〇	二、五〇〇
水牛	一、三〇〇	一、四〇〇	
駱駝	三〇〇		

目下の處國內需要の差%は國産品の供給と推定されてゐる（輸出入は牧畜の項に掲出せり）

### セメント工業

一九三三年度セメントの消費高は十七萬七千噸に達し、内約差は輸入に仰いだ。諸地方に小規模のセメント及煉瓦工場があるが、尤も有力なるは Tripoli 近在の Société des Ciments Libanais にして一九三三年度製造高六萬五千噸といふ。此外目下 Damas に別個の會社が大工場を建設中で一九三四年度から操業する。

セメントの一九三三年度輸入は十一萬二千 Tons 六十四萬五千シリア磅に達し主なる仕向地は Belgium, Yugoslavia に次ぎ France 及 Italy である。

此外、コンクリート導管及 Asphalt 製造業がある、前者製造高二萬米、後者二萬噸を記録した。

### 貿易

一九三三年度の貿易は次表に掲出した通り、輸入四千五百十七萬六千シリア磅（重量七十二萬一千二百三十 Tons）輸出一千七百三十八萬三千シリア磅（重量十三萬五千 Tons）差引入超二千七百七十九萬三千シリア磅である。之れを前年度（一九三二）に比すれば、輸入三百三十二萬三千シリア磅減、輸出二十五萬九千シリア磅増、入超は三百五十八萬二千シリア磅減となる。乍然之れを商品の重量から

みると輸出入全體として六萬七千六百噸増、此の内輸入は九%増輸出四・八%増の割合になつて居る。尙、一九三四年上半季の成績は同じく次表に國別表として詳出した通り、前年同季に比し輸入四百四十九萬六千シリア磅減、輸出二十三萬二千シリア磅減である。

更に上記一九三三年貿易額の内から通過貿易及再輸出の數字を引去つた残りの純貿易額は輸入三千五百五十八萬四千シリア磅輸出七百四十五萬四千シリア磅で、一九三二年に比し前者四百四十六萬三千シリア磅減後者五十二萬四千シリア磅増となる。

通過貿易高は九百五十九萬二千シリア磅で前年度より百十四萬シリア磅増、再輸出高は三十三萬七千シリア磅に過ぎず、前年度より三十五萬六千シリア磅を激減した。

仕出國及仕向國に付ては夫々次表に詳出したから参照せられたい。茲に特に日本からの輸入に付て一言したい。其輸入額は一九三二年三百二十三萬九千シリア磅一九三三年度が三百十九萬六千シリア磅であるが、之れを他の諸仕出國と比較すると、一九三二年の順位第四番から一九三三年は第五位となつた。更に一九三四年度上半季の成績では英佛に次いで第三位に上つてゐる。乍然一九三三年度に於ても通過貿易額を除けば、日本は依然第三位にあつたものである。之れに付ては更に Textiles の輸入の項を参照願ふ。

輸出入商品に付ては税關統計の分類に従て、國內消費と通過貿易分とを比較對照して次ぎに加へた

から参照せられたし。

尙通過貿易の仕出國及仕向地別統計及再輸出統計を添付した。

御覽の通り、通過貿易が巨額なので、同國の貿易は之等諸表を比較對照せぬと諒解出來ない。尙、通過貿易に付ては更に別項四七頁を参照願ふ。

過去五ヶ年間輸出入統計

年	輸 入		輸 出	
	數量(單位千噸)	金額(單位千シリア磅)	數量(單位千噸)	金額(單位千シリア磅)
一九二九年	六〇三	七二、九九八	一一二	三四、二三七
一九三〇年	五七六	六三、五二六	一八八	三〇、六一六
一九三一年	五八七	五七、九六八	一八〇	二〇、八七〇
一九三二年	六五九	四八、四九九	一二九	一七、一二四
一九三三年	七二一	四五、一七六	一三五	一七、三八三

(但し以上の統計には、輸入に於ては Import in transit を輸出には同じく in transit 及 Re-exportation を含む)

輸入品統計 (單位千メトリヤ磅)

ARTICLES	1932 年 Total	1933 年		
		Total	In transit	For consumption
Matières textiles et ouvrages de ces matières.	14,506	14,376	5,748	8,628
Produits du règne végétal	5,493	5,377	496	4,881
Machines et appareils, matériel électrique.	3,364	4,219	256	3,963
Animaux vivants et produits du règne animal.	3,704	3,317	818	2,499
Métaux et ouvrages en métaux	3,741	3,148	121	3,027
Produits minéraux	4,693	2,668	289	2,379
Produits des industries alimentaires, boisson, liquides alcooliques et vinaigres. Tabacs.	2,864	2,080	163	1,917
Produits chimiques et pharmaceutiques	1,970	1,867	35	1,832
Moyens de transport	1,811	1,609	558	1,051
Peaux, cuirs, Pelleteries et ouvrages de ces matières	996	1,404	712	692
Bois, Liège et ouvrages de ces matières	1,093	1,106	8	1,098
Corps gras, graisses et huiles d'origine animale ou végétale.	555	956	5	951
Papiers et ses applications.	1,023	769	30	739
Caoutchouc et ouvrages de caoutchouc.	1,002	708	194	514
Ouvrages en pierre et autres matières minérales.	743	689	18	671

輸出品 (通過貨物及再輸出を含む) 統計 (單位千メトリヤ磅)

ARTICLES	1932 年	1933 年	1933 年	
			Total	In transit
Marchandises et produits divers	941	883	141	742
Matières textiles et ouvrages de ces matières.	48,499	45,176	9,592	35,584
Produits du règne végétal.	7,500	7,575		
Produits du règne végétal.	2,900	2,678		
Animaux vivants et produits du règne animal.	1,887	2,295		
Peaux, cuirs, Pelleteries, et ouvrages de ces matières.	505	1,150		
Moyens de transport	821	651		
Machines et appareils, matériel électrique.	264	522		
Produits des industries alimentaires, boissons liquide				
Alcooliques et vinaigres-Tabacs.	419	461		
Métaux et ouvrages en métaux	759	434		
Produits minéraux	458	338		
Produits chimiques et Pharmaceutiques etc.	281	301		
Caoutchouc et ouvrages de caoutchouc	262	211		
Marchandises et produits divers	1,068	767		
Marchandises et produits divers	17,124	17,383		



主要國產輸出品 (單位千シリア磅)

	一九三三年	一九三二年
動物性原料品(羊毛及腸線)	七八四	五二二
穀類(小麥、大麥 Maize etc.)	七二一	八〇一
Silk (繭、生絲 Yarn, Piece goods)	五八二	五五四
Vegetables	四〇三	五四七
Fruits	四三一	六五一
Clothes, Underweares 其他 Manufactured Goods	四〇六	四八九
皮革類	三九五	一六七
卵	三三三	三四六
Living Animals (駱駝 etc.)	二八一	一九一
機械類	二六〇	二二〇
小麥粉其他製粉類	二五九	一四九
Hosiery Goods	一七六	一三七
木板及製品	一二九	一一四
Soap	一二六	一〇五
棉花及 Cotton Goods	一〇七	二六四
Sweets (Jam etc.)	一〇二	一六三
其他	一、九五九	二、六五八
	七、四五四	七、九七八

一九三三年度國別輸入統計 (單位千シリア磅)

Country Consigned from	For Consumption	In Transit	合計	Percentage
France	7,368	266	7,635	16%
Persia	328	5,544	5,873	13
Britain	4,179	475	4,655	10 <sup>2</sup>
Turk	2,903	627	3,531	7 <sup>8</sup>
Japan	2,817	378	3,196	7 <sup>1</sup>
Italy	2,109	634	2,743	6 <sup>1</sup>
Germany	2,255	91	2,349	5 <sup>2</sup>
U. S. A.	1,827	457	2,284	5
Belgium	1,960	73	2,033	4 <sup>5</sup>
Roumania	1,776	231	2,007	4 <sup>5</sup>
Egypt	1,401	52	1,454	3 <sup>2</sup>
Irak	736	296	1,033	2 <sup>3</sup>
Palestine	900	2	902	2
Czechoslovakia	548	213	761	1 <sup>7</sup>
India	696	18	715	1 <sup>6</sup>
U. R. S. S.	119	86	206	0 <sup>5</sup>
Others	3,662	149	3,799	8 <sup>2</sup>
	25,584	9,592	45,176	100%

一九三三年度國別輸出統計 (單位千シリア磅)

Countries of Destination	輸出總高	再輸出高	通過貨物輸出高
U. S. A.	4,798	2	4,000
Palestine	3,662	158	527
Irak	2,615	89	1,943
Britain	1,567	21	1,291
France	1,302	3	162
Turk	688	38	505
Egypt	657	6	324
Italy	487	0	168
Transjordanie	346	13	32
Germany	295	0	192
Persia	186	12	172
U. R. S. S.	164	0	0
Cyprus	129	0	100
Others	487	14	176
	17,383	337	9,592

(但し輸出總高には再輸出高及 In transit 輸出高を含む)

一九三四年度上半季國別輸入統計

(單位千シリア磅)

(何れも金額は Intransit 分を含む)

	1934年	1933年
France	2,480	4,309
Persia	1,932	2,228
Britain	2,538	2,517
Turk	1,088	1,304
Japan	1,655	1,451
Italy	944	1,439
Germany	1,083	1,177
U. S. A.	1,150	1,011
Belgium	650	1,010
Roumania	730	910
Egypt	363	919
Irak	663	676
Palestine	488	454
Czechoslovakia	316	372
India	343	303
U. R. S. S.	62	178
Others	1,116	1,839
	17,601	22,097

一九三四年度上半季輸出統計 (前年同季と比較 單位千シリア磅)

	1934年	1933年
U. S. A.	892	1,807
Palestine	1,330	1,096
Irak	1,646	1,252
Britain	336	936
France	876	567
Turk	318	319
Egypt	321	372
Italy	213	182
Transjordanie	146	137
Germany	109	90
Persia	352	81
Holland	7	1
Cyprus	24	65
Others	243	140
	6,513	7,045

何れも金額は再輸出及 In-transit を含む

通過貿易統計 (單位千シリア磅)

TRANSIT-ENTRY		TRANSIT-SORTIE			
1933年	1932年	1933年	1933年		
Persia	5,544	3,892	U. S. A.	4,000	3,083
Italy	634	798	Irak	1,943	2,074
Turk	627	462	Britain	1,291	617
Britain	475	414	Palestine	527	493
U. S. A.	457	770	Turk	505	666
Japan	378	449	Egypt	324	278
Irak	296	218	Germany	192	88
France	266	331	Persia	172	300
Others	915	1,118	Others	638	853
	9,592	8,452		9,592	8,452

再輸出統計 (單位千シリア磅)

	1933年	1932年
Palestine	158	223
Irak	89	212
Turk	38	100
Transjordanie	13	63

Perse	12	28
Egypt	6	15
	21	52
	337	693

主要再輸出商品 (一九三三年度)

Woolen Goods	80
Cotton Goods	43
Silk, Rayon Goods	36
Auto, Cycles	17
Rubber Goods	15
Chemical Goods	14
Iron, Steel	10
Others	122
	337

以上で簡單乍ら Syria の最近經濟事情を辿つたつもりである。之れに依て知る處は同國も亦世界的不況の一犠牲者として荆棘の道を蹈みつゝあるものである。而も之れが隣接國 Palestine とは反對に、新興の意氣に乏しく、前途には多くの暗影をすら認むるものである。次ぎに主たる二三の問題を採り上げて結語とする。

Textiles の輸入と日本

Textiles の原料品及製品の輸入は、一九三三年度一千四百三十七萬六千シリア磅に達し、内 Transit 分を除いても依然八百六十二萬八千シリア磅に達して輸入項目中の首位にある。而も此分野に於ては本邦商品の侵入が最も云々されてゐるので、次に此の内容を解剖して見る。

(單位千シリア磅)

	IMPORT FOR CONSUMPTION		IMPORT FOR TRANSIT	
	合計	内、日本より	合計	内、日本より
Silk Yarn	20	0	18	0
Rayon Yarn	565	1	12	0
Silk Piece Goods	92	54	26	19
Rayon Piece Goods	274	32	127	70
Mixed (Silk, Rayon, Cotton, Wool)	198	9	143	7
Sundry (Silk or Rayon)	47	0	6	0
小計	1,196	96	332	96
Cotton Yarn	676	20	138	106
Cotton Piece Goods	3,600	2,265	630	168
小計	5,472	2,381	1,100	370

Woolen Yarn	242	1	1	0
Woolen Goods	1,001	4	191	0
Hosiery Goods				
Silk	27	2	0	0
Rayon	56	0	6	0
Wool	70	0	7	0
Cotton	369	164	12	1
Mixed	56	1	6	0
Clothes, Underwears 其他各種 Manufactured Goods				
Clothes	357	6	5	0
Underwears	63	22	3	0
Handkerchief	23	14	1	0
Cover	58	12	6	0
Carpet	280	0	4,311	0
其他	330	13	80	1
其他	224	4	19	1
共	8,628	2,624	5,748	373

即 Levant 直輸入の Textile 八百六十二萬八千シリア磅の三〇%は邦品で、この内三百六十萬シリ

ア磅に達する Cotton Piece Goods は實に六三%が邦品の占むる處である。  
通過貿易に於ては約八〇%は Carpet であるが、之れは Persia の U.S.A. 向輸出絨毯であるから、  
此特殊品を除けば、此れに於ても日本は二六%を占めてゐる。

本邦より輸入（通過貨物を除く）の主なる Cotton Piece Goods 如次（單位十シリア磅）

日本より	Levant 輸入合計	(1933年)
Cabots	588	609
Greys	2	12
Madapolam	128	228
Other Bleached Goods	42	254
Piece Dyed Goods	219	814
Yarn Dyed Goods	971	1,164
Prints	310	470
其他	5	49
共	2,265	3,600

本邦綿製品の Syria 進出は茲五六年來であつて一九二九年に於て總輸入の一二%を記録したが、從來之れが Manchester の市場であつたことは、他の近東諸國と同様であつた。然るに爾來一年毎に本邦品は躍進して遂に六〇%に達し、從來の王者英國は二〇%弱に陥落するに至つた。

一九三三年度の日本の輸出は、直輸出二百八十一萬七千シリア磅、通過輸出三十七萬八千シリア磅であるから殆ど九五%迄は Textiles 殊に Cotton Piece Goods たることを知る。一九三四年度上半季に於ても日本の輸出は前年度に比し約一一%の増加を示したから、更に Textiles の輸出割合は増加したるものと考へられる。

本邦と Syria の取引は埃及と同様同國に Agent を置くものもあるが、反對に日本に Buying Agent を派遣したるものが極めて多いことは一個の特色をなす。この外埃及の Commission Agent に依る取引が少からざる部分を占める。又最近に至り邦人商社の内三菱及鐘紡は邦人の駐在員を置くに至つた。

如斯日本の Syria 向輸出は急速の進歩を見たのであるが、Cotton Goods の輸出割合から見て最早頂點に達した感あり、兎も角國內 Textile Industry も徐々に發達しつゝあるから、日本の輸出が Textiles に限局さるゝ以上此れ以上を望むことは出来なうであらう。只通過貿易の方は未だ進歩の餘地あるべさも、之れは元々 Persia 及び Irak に對する直輸出と相關するもので簡單なる議論は許されなう。茲に差當り問題となるのは一九三五年日本の聯盟正式脱退後に於ける關稅問題である。同國政府從來の濃厚なる保護政策の傾向を知るものは何人と雖も、同國が此機會を狙つて特別稅率賦課或は其他の手段を以て邦商品を抑壓するに至るべきことを危懼せざるを得ぬ。目下の状態に於ては國際聯盟非

加入國は各個に通商協定を結んで可及的最惠國條款の利益を確保してゐるが、特殊の商品に於ては逐次に保護主義的關稅を課して自國産業の防禦に資し、特に一九三三年末勞農ロシヤとの協定は Barter System に立脚せるものであつた。如斯して、日本は差當り通商協定を締結するの要を生ずべく、外務省に於ては既に下交渉を開始したるやに仄聞する。只一九三三年に入つて總督の要請の下に行はれた同國諸有力實業團體の關稅に關する意見書の中に、一般 Textiles の稅率は現在以上引上ぐることを申告してゐた。此外、最も有力なる Tripoli の Arida 工場が(p. 33 參照) Cotton Yarn の關稅引上を要請したるに對しては Alep 始め一般の製織工場は之れに反對して邦品を採るべしとした事實がある。旁々佛蘭西は綿製品に多くの Interest を持つてゐないので、縱へ邦品を抑壓するも Manchester の肩を持つことゝなるに過ぎずして而も不當に住民の利益を害するが如き政策を採ることはなかるべしとも考へられるが、遽かに早斷を許さず今後の展開に待たねばならぬ。

因みに目下 Beyrouth には Mr. E. Soubriet が名譽領事をしてゐるが、一九三四年度の豫算には同地に領事館設置が企圖せられてゐると聞く。

## 通過貿易

一九三三年度通過貿易の總輸出及輸入に對する割合は五〇%及二一%で數年來漸増の傾向にある。

Levantが近東に於て地勢上最も樞要の地位を占むることは、勢ひ同國を土耳其、Persia, Irakを始め其他奥地に對する中繼貿易の中心地たらしめ、特に大戰前土耳其帝國の時代に於ける Beyrouthは近東商取引の中樞として最も重要な役割を務めたが、同帝國の分裂と共に政治的事情から其活動の範圍は著しく限局せらるゝに至り、爾來同國商業は顯著なる衰退を見、惹いて其經濟上の重要な地位を失ふに至つた。特に最近 Palestine が新興勢力を以て Irak 方面中繼貿易にも進出して來たことは同國發展の障害たるものである。

乍然同國は農業國たるにも不拘、其生産力は國內需要を充す以上に多くを出せず、又製造工業の狀態は微々たるのみならず隣接諸國の關稅障壁の爲めに大いなる將來の發達を期待することを得ざる有様にして、勢ひ商業殊に通過貿易の伸長といふことは今後とも同國に採り最も重要な問題である。之れが爲めに政府は一九三三年來 Beyrouth 始め各開港及國內主要都市に Zones Franches (free zone: 假置場制度)の制度を設けて Persia 及 Irak 方面への通過貿易に資するに至つた。此外 Persia 及 Irak への自動車通路の開發を繼續して交通の發達を圖りつゝある。

### 貿易の逆調

最近五ヶ年間貿易逆調記録如次

一九二九年	三八、七六〇、〇〇〇	シリア磅
一九三〇年	三二、九一〇、〇〇〇	
一九三一年	三七、〇七六、〇〇〇	
一九三二年	三一、三七六、〇〇〇	
一九三三年	二五、六五五、〇〇〇	

(計算の基礎は輸入輸出共 Transit trade 分を除く、輸出には再輸出の金額を含む)

此貿易逆調は大戰以來繼續的の事實であつて一九三三年は稍々改善せられたけれども、例年三千萬シリア磅見當の入超を見てゐる。一方 Invisible Trade の受取勘定を調べる方法は無いけれども近年之れが減少してゐることは一般の認むる處である。之等收入の材料としては移民の送金、外國證券の利子收入、Tourist の消費及通過貿易に基く収益並に密輸入による不當利得 (Smuggling が Invisible Trade の材料となるといふことは一見奇怪のことであるが、方法の如何を問はず之れも一個の商品輸出たることには違なく、從て之れには必ず相當の對價が入つて來るわけである。之れは Turk が嚴重なる貿易管理を營むが爲めに同國との密輸入は自然激發せられ居るに依る。乍然 Palestine との關係に於ては Syria の關稅が高率にある爲め Turk とは反對に受身の地位にあり、而して事實著しく Smuggling が行はれてゐる。從て Syria の密輸入の利得は差引大したものでなるといふ觀測がある)、等が挙げられるが、此巨額の輸入超過を填補し得るに近きものは一つもなきものとせらるゝ。而して決濟は事實

正貨の流出に最も多く依存するといふ。此點の解釋を聞くに、大戰前から同國の金の貯藏高は、住民が亂脈なる幣制に信用を置かなかつた結果、極めて巨額に達せるものとせられる。大戰中には同國からも多くの亡命者を出したから金の流出も相當に達したが、反面獨逸が同地に於てなした物資購入は著しい額に達し、之等は皆金で決済せられたので、正貨在高はむしろ増加したものと見られてゐる。乍然固より此の状態は永久に繼續し得べき筈はなく、既に識者により問題とせられてゐる。この場合同國通貨が Franc に Link してゐることは金を離脱した多數の外國に對し明に不便の地位にあるものである。政府は關稅政策の運用に依り輸入の抑壓と共に國內工業の發達による輸出の増進を圖り、併せて通貨貿易の伸長に依つて之れを補正する爲めに大童であるが、實に説くに易く如何に其の達成の難きかは Syria の場合に於ても例外ではなからぬ。之れは Syria に於ける今日及將來の最大の惱である。

參考資料

1. Bulletin économique Trimestriel des Etats du Levant sous Mandat Français, 1933, No.1-4.
2. Bulletin Annuel de la Banque de Syrie et du Grand Liban 1933 and 1934.
3. Economic Conditions in Syria 1933 by Dept. of Overseas Trade.
4. Le Commerce du Levant. (Le journal commercial public à Beyrouth)
5. Statistiques du commerce extérieur des Etats du Levant sous Mandat Français 1933.

(アレキサンドリア出張所詰書記 藤崎義幸稿)



## 希臘及近東地方見聞雜錄

昭和九年十一月

アレキサンドリア出張所報告

### 希臘

地中海を間にして Alexandria から希臘の Pirée 港 (or Peiraens) 迄約五百二十哩四十五時間を要する。此間の交通は、Greek, Turkish, Romanian, French, Italian 等の Regular Mail Boat の外、英國及和蘭の Air Mail が Athens 迄週二度あり極めて便利である。

Pirée 港は希臘第一の商港たるのみならず、伊太利、埃及、土耳其及近東の中間たる其形勝の地位を利用して地中海主要港の一とする。東に Phaleron 南に Salamis 島を控へて Pirée の町は人口三十萬、其自體は一個喧騒の港町に過ぎないが、Phaleron 灣に圍まれ後に山脈を背負つて自然の港灣を成すことは、地中海興亡の數千年の歴史に重要な役割を務めた所以で知る。

Pirée 港から Athens (Athen) 迄は自動車又は電車で半時間弱の行程に過ぎず、現在では兩者は町繼きとなつてゐる。之れは歐洲大戰後の土耳其からの Refugee 移民の渡來に基く Athens 市の人口増加による膨脹の爲めといふ。Pirée からの行程半にして遠望する Athens 市は、恰も其四千年の歴史に相應しく莊嚴に屹立する Acropolis を中心として、大きくはないが乍然清楚に横はる。

希臘は貧困にして兵隊は乞食のやうな風をしてゐるとは屢々耳にした處であるが、之れは嘘である。Turk Syria Palestine 及埃及等近東諸國の何れよりも、其財政は窮狀にあることは事實であるが、少くも市街の體裁は之等の何れよりも整頓せられてゐる。之れは近東の國々が多くは Mandate Territory であり或は名義上の獨立國であつて、その住民は人種及教養からみて無統制の集團たるに對し、希臘は兎も角も立派なる獨立國であることは、縦へ大國のそのやうに高度に組織化されてゐないとしても、直接間接に之等國民の自覺は多くの好ましき結果を將來するものと考へる。因に希臘の總人口は六百二十萬人弱、内、外國人は四萬五千人強のみ、日本人は公使館員の外絶無、言葉は勿論希臘語であるが、貿易用語としては French 最も行はれ次で German, English の順であるが、埃及や近東のやうに誰れも彼れもが外國語を話すやうな不自然のことは見受けない。

Athènes が Acropolis を始めとして之等 Antiquity に據て有名なることは申す迄もないが、之れは本稿の目的ではないし又吾々の詳にする處ではないから一切を Baedekers に譲る。以下短い期間に見聞した經濟上の二三の問題を紹介して御参考とする。尙爲替管理、貿易管理及其他一般經濟事情は他日詳報の筈である。

希臘の金本位離脱(一九三二年四月)以來一九三三年末迄に百二十三の新規工場が設立せられたといふが、此期間に政府が採つた爲替政策、Quota System 及 Clearing System は二重三重に從來の輸入を

東搏困難にし、之れは惹いて急激に新規産業を勃興せしめ、或は從來の國産品を向上せしむるに至つた。Athènes 市に一九三三年 Permanent Exhibition of Greek Products, Agriculture, Industry and Art が設立せられたが、極めて大規模のものであらゆる國産品を網羅し、吾々門外漢にも興味あるやう工夫されてある。其陳列商品は極めて多岐に亙るが、煙草、酒類、乾葡萄、Olive oil、無花果等主要農産品の外、絹絲、綿絲、毛絲、生地及製品、絨毯、Cement、ガラス、電機機具、農業機具、Aluminium ware、鐘詰類等を列擧することが出来る。之等工業製品の大部は未だ外國品に匹敵する程度には精巧ではないが、輸入の杜絶は反射的に漸次品質の向上を促しつゝあるとの事である。因みに一九三三年度の輸入は其前年に比し約二〇%を減退してゐる。

對之輸出は一九三三年度に於て前年度より約三〇%を増加し、正味貿易尻は入超三十二億 Drachmae を記録し、此の輸出入割合は一九三四年も殆ど同様であることが報告されてゐる。此の入超を Cover する Invisible Trade は Tourist の消費、移民の送金及海運業の三であるが一九三二年來 Drachmae の暴落で特に観光客及 Greek Boats の就航は著しき好調にありとす。因に同國は Antiquities の外 Athènes 市の近くに Plaleron 海水浴場あり、Kiphissia あり、特に後者は形勝の高原にあつて、夏季の長期滞在者が極めて多い。政府も船賃汽車運賃を特別の低率とする外種々便宜と施設を圖つてゐる。之等の土地は何れも Hotel は完備し交通の便も申分なく、名所舊蹟に共通な不快なことを經驗

することは少い。距離の近いことから埃及からの Tourist 最も多く一九三三年度のそれは一萬六千、其他一萬二千、之れに短期観光者の數五萬以上といふ。

希臘國民の四五%は農業従事者といふが、一九三三年來引續き全般に互て豊作であることは重大なる寄與として數へられる。同國は農業國たるに不拘未だ自給自足の域に達せず、收穫の増加はそれだけ輸入の減少となるものである。

之等雜多の原因は一九三三年來同國經濟の上に改善の曙光を示し、平價三百七十五 Dr. から一時は六百三十五 Dr. 迄下落してゐた Drachmae は最近五百三十から五百十五 Dr. に上向き以前のやうな大巾の變動なきに至つた。又失業者の數は一九三三年十月調十六萬であるが、之れは從來に比し相當の減少なりといふ。最近の Banque d'Athènes の報告に依るも何れも以上の事實を confirm するものであるが、乍然財政は依然極度に涸渇して居る。下落した Drachmae で計算すると國債現在高は六百五十億 Dr. 見當であるが、數年來元金は固より利拂すら不可能の状態にある。幾多非常政策の結果として前述のやうに一般經濟は稍々改善し、從て間接には財政の上にも若干の潤を齎したのであるが、實に九牛の一毛に過ぎず、財政及國際收支は辛じて均衡の態を爲すと雖、之れは國債を default した上のことであつて、若し之れを Regular に支拂ふならば此の何れもが巨額の赤バラとなることは明である。磅の金離脱は希臘財政の窮狀に拍車をかけたものであるが、實に此の財政状態の窮迫こそ

同國をして其後極端なる爲替竝に貿易管理を餘儀なくせしめたものであつて、從て縱へ一般經濟が今後如何に向上しやうとも、財政の改善せられざる限り、同國は常に極端なる統制經濟の桎梏を脱し得ないであらう。

希臘の中央銀行は Banque de Grèce であつて數年來の爲替竝に貿易管理の直接の主宰者である。金本位離脱の前後に於ては正貨準備率は法定率を割つたが、一九三三年來回復して目下六六%、公定割引歩合は、右の混亂時には一一%、後九%から一九三三年十二月に入りて七%に下り今日に至る。此外主たる市中銀行として Banque d'Athènes 及 Banque Nationale de Grèce があり何れも亦 Exchange Bank として當店にも關係がある。右の内、Banque de Grèce は年六回 Bulletin Bimestriel を Banque d'Athènes は年四回 Bulletin Economique et Financier を發行してゐるが希臘の經濟財政研究の材料として極めて珍重に値する。

最後に物價に就て一言したい。之れは成程長期滞在客の多いわけで、特に生活必需品は埃及及近東に較べて遙に安い。然し勿論之れは國產品に限る、と云つて品質は決して悪くはない。乍然安いといつても之れは割高の國から來た旅行者にとつてあつて希臘人には當嵌らない。何となれば彼等の收入は物價安の割合より更に低率にあるといふ、例へば大藏大臣が官吏の給料は Minimum of Cost of Living 以下であることを言明してゐるのは一の證左である。他の一般階級に於ても概ね同様に貧困で

あることを見聞した。尙物價指數に付ては一九三一年を一〇〇として大體一一五を現在指數とするが、通貨の膨脹及 *Drachmae* の對外價值下落を考慮に入れれば大なる騰貴とすることは出来ない。希臘は人口六百二十萬弱、四萬九千 *square miles* の眇たる小國に過ぎず、之れが前述の如き經濟上の弧立を圖る如き其成功には多くの疑問がある。殊に其財政の状態は、最早之れ以上借入の餘地無く募債の源泉は全く涸渇し、爲めに緊急なる多くの施設は放棄せられてゐるといふ。此の間にあつて最も同國の缺點とする處は國民が餘りにも政争を好み、政變の絶間ないことで、建設的國力の發展の最も致命的障害とせられ、之れの安定なき限り恒久の回復は望み難しと云ふ。

### Rhodes 島

*Pirée* から約十五時間にして *Rhodes* 島の北端 *Rhodes* に達する。*Rhodes* 島は千四百 *square kilo-*  
*metre* 人口五萬足らずの小島に過ぎないが、地中海交通の要所に位することゝ、古代から中世にかけての歴史上の舊跡の豊富なることゝ、及其風光の絶美を以て有名である。首府 *Rhodes* は數哩の海峡を距て、對岸小亞細亞を望み、後に優美なる高山を背負ひ、全市中世紀十字軍時代そのまゝの城廓と建物を維持した *Exotic* な町である。當時聖地遠征に當り十字軍は常に此處を足溜りとしたが、特に十四世紀の始めから二百十數年に亙り之れを占有して領域とした。爾來土耳其領となり今世紀に入て

伊太利領と成つた。乍然幸にして十字軍の文明はそのまゝ多くを害はれずして今日迄残つてゐる。住民は *Orthodoxes* 及 *Latinis* の外回教徒及 *Jews* を含む。昔のまゝの石疊の狭い道路、窓の高い頑丈な家に住む彼等の又之れに似合の鄙びた風俗は奥床しい。同地は氣候も *mild* なので近東及南歐の有名な避暑地として其設備も行届いてゐる。恐らく明媚の地としては近東隨一であらう。如斯狭い處であるから産物として見るべきものは僅かに葡萄を主とし其他若干の農産物のみ。銀行は *Banque d'Italie, Banco di Roma* 其他五六の小銀行がある。通貨は *Italian Lira* とする。本邦品は *Alexandria* を經由して若干入てゐるが、主として *Italy* の *market* たることは勿論である。

### Cyprus (サイプリス)

元來 *Cyprus* は土耳其に屬してゐたのを一八七八年來英國が占有し、大戰後正式に英國領土と成つた。*Syria* と向合つて地中海の東端にあり *Syria* 及埃及へは半日乃至一日の航程にある。東西に百四十哩南北に四十哩餘、人口約三十五萬、西から東に沿岸を航行し *Larnaka* 港から *Famagusta* 港迄は山越へに陸走したが殆ど全部二千呎乃至六千呎の岩石露出した秃山許りだ。之等高山の間の平原には雨季を待つて植付を開始するのだと聞いたが、今は時節外れで何も見ない殺風景さだ。地中海も東漸するに従て木を見ることが少くなる、漸く埃及近東の砂漠地帯に近いことを豫知するわけである。

同國は全くの農業國で僅かに絹、皮革及煙草の小規模の産業があるだけである。Limassol, Larnaka 及 Famagusta の三港は吾々の聞いてゐた處だが、町としても港としても Famagusta を除いては實に眇たるもので住民の風俗も現代離れのした Local colour を出してゐる。Famagusta は同島最大の商港であるが世紀前及中世紀の多くの遺跡がある。

近年同島へも本邦商品の輸出は増加するに至つたのだが、一九三四年六月 Textiles に對する割當制設置の結果殆ど此販路を失ふに至つた。一九三四年度の割當は僅かに一ヶ月半で限度に達した。一九三五年度は五十萬 Yards を割當られてゐるが、現在既に四十萬 Yards 弱の在庫品を有する有様だから問題にならぬ。

何れにしても島自體は富んでゐない、將來共大して興味のある處とは考へられぬ。

## Palestine

Palestine の主要都市は Jaffa, Tel-Aviv, Jerusalem, Haifa, 之れに次ぐものとして Nablus, Nazareth, Tiberias を擧げることが出来る。此の内 Jaffa 及 Haifa を二主要港とし Tel-Aviv は純猶太人の新興都市 Jerusalem は政治及學術の中心であり又 Holy Land として夫々顯著の存在をなす。之等都市連絡の機關は縦横に完備した道路を通じて各種自動車に依つて容易且極めて便利である。地續きの埃及及び

Syria には夫々汽車を利用することが出来るが、Syria へは遙かに自動車を便利とする。更に地中海航路の汽船の多くは此處に寄港するから、海陸共に運輸機關は完備してゐる。

Jaffa 及 Haifa 共に國相當のものではあらうが、Alexandria 港の規模には比すべくもなす。Haifa には一九三三年來簡單な築港が出来てゐるが、何れも自然の港灣の態をなしてゐない。冬季風波の荒い時荷揚が出来ない事があると聞いてゐたが尤もと思はれる。船は沖着であるから上陸は不便たるのみならず税關界限の汚いこと、まるで秩序のないこと、之れは總ての近東港の通態であるが、相當不愉快のものである。其れに目下猶太人の移民問題から Passport の検査は嚴重を極めてゐる。

Palestine の人口は百十萬人乃至百二十萬人と推定されてゐるが、近年迄其主要人口は Arab 族に依つて占められてゐたこと埃及及び近東の都市と異ならないから、都市の態様は他と同様 Orient と European style の雜然たる混交であつて Civilized country の整頓と清潔には極めて遠いものである。只一つの例外は Tel-Aviv 市であつて Palestine と云はず近東及埃及を通じて唯一の純歐洲風の都市として unique の存在をなす、前掲「Palestine 近情」に於ては猶太人の活動に就て多く觸れたのであるが、Balfour Declaration の所謂 Jewish National Home は實に此の Tel-Aviv 市を中核として居る。此處では同市及近郊の見聞を紹介する。Tel-Aviv 市の establish されたのは茲四五年といふが、之れが今日の態をなしたるは實に一九三三年來であつて而も今に沙漠たる郊外には續々建築が行はれつゝあ

る。之等建築物は純歐風、階敷を制限して建物を整頓而も之等の總てが新しいので、恰も博覽會の建物を見るやうな感がする。Jaffa 市は純 Arab の町で、而も Tel-Aviv とは全く連絡してゐるので、此の兩者を比較すると面白い。何れもが商業都市であることに違ひはなすが、Jaffa が主として Arab に依り占められる極めて古い町で無秩序不整頓のそれであるに對し Tel-Aviv は九九%迄 Jew の町である。市民が Jew であると共にあらゆる職業は Jew に依つて占められ且市の經營は高度に彼等の手に依つて自治せられてゐる。町が清潔で活氣のあることは實に他の何れの近東の都市にも見ない處である。特に一九三三年入つた優秀なる German Jews は多くは此處に establish して著しく市の實力を向上させた。Jewish Land の代表的 Jewish city として市民の鞏固なる團結は一絲亂れぬ統制の下に測り知れざる底力を持って日進月歩してゐるのが同市の現状である。目下其人口は十二萬といふが、隣接の Jaffa を遙かに超ゆるに至り、その經濟上の重要性も益々重きを加へつゝある。

尙 Tel-Aviv の近在は Palestine 唯一の輸出商品たる Oranges の Plantation 中心で、周圍數十キロには多くの Agricultural settlements を見る。従つて Tel-Aviv が之れの金融並に集散の中心地たることは云ふ迄もなす。

Jerusalem は Tel-Aviv から約一時間半の自動車行程、Syria から Palestine の内地を縦斷する山脈の南端に位する。附近は僅かに Olive の畑が散在する程度の荒涼たる秃山と岩石に覆はれた Valley

の連続である。Jerusalem の町は延長約二之哩の城廓を中心にして之れの内と外に約半々の人口を有するが、城廓外は主として近代の開拓であつて Holy Sepulchre を始めとして毎年無数の巡禮を呼ぶ處の基督教猶太教及回教の教會寺院其他多數の遺跡は城廓内にある。此面積は二百十 acres に過ぎないのであるが、之等貴重な遺跡をはさんで城内は恰も迷宮の如く無数の小路に依つて四通八通して數萬の Christian, Jews 及 Mohamedan に昔乍らの住居を與へてゐる。而も道路といつても漸く三間から著しきは一間程度のもので、此兩側には之れ亦間口奥行共に一二間程度の小店が連続し、此間を驢馬を使つて物の運搬迄やつてゐるから、其混雜はお話にならぬ。而も晝でさへ薄暗い上に極めて不潔で、それは他の何處の近東都市よりも甚しす。住民は最も Jews が多しといふが他の都市の Jews とは違つた全く昔乍らの風俗をなし、其文化の程度も低す。Jerusalem の近郊には Mount of Olive (橄欖山)、Bethlehem 更に離れて Jericoh から Dead Sea 其他新約及舊約に因む遺跡は枚舉に遑がなす。此の内最大の奇觀は死海である、海面下千三百 feet Jerusalem から約一時間、四百 square miles あるといふが實に海の感じだ。それは正に死海の名に相應しく重疊たる山脈の底に無氣味に横はる。北岸に有勢を傳へらる、English Potash & Co. の Factory が獨りポッシンとある外は何もなす。之れに流れ込む Jordan 河を稍溯つた處に Palestine と Trans-Jordan の國境税關がある。兩者の間は立派な自動車路に依つて連絡されてゐる。更に此の有名なる Jordan 河を六七十哩北上した處に Sea of

Galilee (ガリラヤ湖)がある、湖畔には最近 Jewish colony として大きくなった Tiberius 及有名な Capernaum がある。後者には今は寺院と遺跡があるだけである。此附近の景色は Palestine 随一のものである。此處から更に北上二十哩位は Syria との國境 Jisr Benat Yakub に達する。但し Palestine 側の税關は之れより約數キロの手前にある、Palestine-Syria 間に密輸入の甚しいことは常に耳にしてゐた處だが、税關の役人も國境は廣しし山越への密輸入は仲々防止し切れなうことを自認してゐた。日本からの輸出も Syria 國境に近う Haifa 揚が一番多うのだが、此内少からざるものは Syria 向密輸入用といふのは萬更嘘ではなうやうだ。因に、吾々の知る範圍で日本と直接取引關係ある Palestine の都市は Jaffa, Jerusalem, Tel-Aviv, Haifa 及 Nablus である。

Palestine の通貨は Palestine Currency Board の發行にかゝる政府紙幣及補助銀、白銅、及銅貨で、全く Sterling Pound に Link した One Palestine Pound は One Sterling Pound に Fix. (One Palestine Pound = 1,000 mils) Palestine Government の支拂保證がある。Sterling Pound 及 Egyptian Pound 貨は一般に流通はしてゐないが、支拂の instruments として自由に受入れられてゐる。従て所謂發券銀行は存在しないが Currency Board に依頼されて實際の事務を取扱ふものは Barclays Bank の支店である。

此外 Ottoman Bank, Banco di Roma も各地に支店を持つてゐるが Palestine 自身の有力な銀行とし

て The Anglo-Palestine Bank, Ltd. がある。同行は數年來當店の Palestine に於ける Correspondent として密接なる關係にあるが Palestine 向輸出の激増と共に取引高は巨額に達して居る。之れは一〇〇%の Jewish Bank であるが、近年の Jewish Prosperity に伴つて著しく其重要性を増した。Palestine 中に十數の支店を持つが Tel-Aviv を統轄店とし London の Jewish Colonial Trust, Ltd. は其 Holding Co. である。同行は Beyrouth の支店を先年閉鎖したが Palestine 以外の金融には一切 touch しないことを信條とするとの事である。

Orange の輸出が同國唯一の重要産業たることより之れに對する金融は銀行の主たる職能の一である。Palestine の Orange Plantation は資本關係からみると、小農園の多數の集合であるが、之等は地理的に近接せるものが相倚つて組合を組織し、銀行は此組合に對し栽培資金を融通してゐる。此組合は更に販賣及輸出に至る迄組合員の共同の利益の爲めに營む。銀行の融資は多くは輸出船積書類の買取に依て決済せられてゐる。

目下同國が資金過剰の状態にあることは衆知の事實であるが、預金利子は一%乃至之れ以下、割引歩合は六乃至七%、銀行遊金の多くは Treasury Bills に投資されてゐる。因に Jews の Holiday は土曜日なので特に Jews の多う地方(例へば Tel-Aviv)では銀行も之れに倣ひ、日曜日に働く。

Palestine の official language は English, Arab 及 Hebrew の三つであるが Commercial Correspondence

には French も多く使用せられてゐる。Jew は Hebrew を使うこと勿論であるが、獨逸語も極めて多く用ひられてゐる。

同國の政治状態は近年平穩に推移してゐるが、最近の Jews 人口の増加及其經濟上に勢力を激増して來たことは、再び同國の歴史的問題たる Jews と Arabs の反目を誘發するの傾向にある。Jews が其資本力を利用して Arab の地盤を侵蝕するのみならず、彼等が極めて排他的で Jews 許りで固めて互に利益を分たうとしなうことは、兎も角も先住民族たる Arab には快くない處であらう。然るに政府としては Balfour Declaration の手前、今後共 Jews を盛り立てねばならぬ立場にあるので、此の問題は常に同國の悩むところであらう。

### Syria (Des Etats du Levant sous Mandat Français)

Syria は面積からいふと Palestine の約十五倍十五萬 sq. kilometres に達するが、都市の集中するのとは主として地中海に沿ふた西部地方であつて、廣袤たる奥地は人口稀薄なる沙漠地帯で遠く Irak と境する。従て商業都市は全部海岸地方に位し、其主たるものは Beyrouth, Damascus, Alep、之れに次ぐものとして Tripoli, Alexandretta, Hamah, Hems を擧げることが出来る。この内 Beyrouth, Tripoli, Alexandretta を三主要港とする。筆者の見たのは Palestine から山越へに Damascus から Beyrouth の一帯に過ぎないが、經濟的には Syria の中樞をなす地方である。之等の地方は海岸に沿ふて Syria を縦走する Lebanon 山脈及 Anti-Lebanon 山脈を背負ひ、その間は荒涼たる矮瘦の高原で依然として豊饒の沃野は想像すべくもなし。

Damascus は世界最古の都市といふので有名である。紀元前十九世紀當時に既に大都會を爲したことが記録されてゐる。往時 Euphratis から Judea を通て埃及 Nile 河に至る中心地として隊商の集散地であつたといふ。此名残として今日の同市の Bazaar を見るのは興味深い、之れはあく迄舊式で近代味から遠く近東臭をそのまま維持した驚くべき面積と商品と商人の豊富さを持つたものである。此外同市には Citadel, Mosque 其他歴史上の遺跡は極めて多い。人口は Beyrouth より遙かに多いのであるが商業上の地位は既に昔のものだ。中世紀から此處の絹織物は有名であつたそうだが、今日では競争圏外に驅逐せられた。かゝることには超然として Mount Hermon 山麓に昔乍らの平和を樂む落付いた感じの町である。

Damascus から數十キロの處に世界の七不思議の一 Baalbeck がある。

Beyrouth は西暦以前の Phoenicia 商業の中心地 Tyre 並に Sidon の町の稍々北に位し、極く近代に於ては Ottoman 帝國の近東に於ける商業中樞として Syria, Palestine を牛耳つた。大戰後 Palestine の勃興は其活動を Syria に限局せしむるに至つたが、現在に於ても同國政治經濟の中心たる最も重要



の地とする。日本からの輸入貿易も約八〇％は同地經由である。

數字からみて Syria と Palestine では財政及經濟共に前者が見劣りすることは旅行者の皮相の觀察にもその事を印象付けられる。例へが道路にしても Palestine の國境を離れて Syria に踏入れれば直ちに其粗惡なことを發見する。且見聞した範圍内では銀行にしる商社にしる近東の Tradition に餘りに執着して所謂 Business Like とする觀念には多くの距りがある。

Syria の通貨は Banque de Syrie et du Grand Liban の銀行券及政府發行の補助貨幣(幣制に就ては「Syria の近情」参照のこと)を主とし、外に奧地では Turkish Gold Pound が流通してゐるが、既に殘高は二百磅トルコ磅位に減少、且摩滅の度甚しきものがあるので自由流通は困難になつてゐるといふ。French Franc を使用することは勿論自由であるが、之れの間相場は常に Par 以下であるから事實大なる流通は無いと聞いた。只物價の表示法としては以上二つとも日常頻繁に行はれてゐて煩しい。此外貿易には Sterling が多く行はれてゐることは、吾々の經驗してゐることである。

國の Capacity から見て Syria には銀行が多過ぎるといふことは事實である。其れで競争の激しいこと、不景氣で、最近利益を出してゐるものは發券銀行と Private Bankers の一二のみと聞してゐる。同地一般商業銀行の最も主たる業務は手形の割引にあり、而して大體に於て Private Bankers が割引に當り、之れを一般銀行で再割するを通態とするといふ。之れは Private Bankers の方がどうしても

土地の細い事情に通じ、群小 Merchants の信用状態を詳細にしてゐるからである。同地には十餘の之等 Bankers があるが、其の一二は優に一般銀行に匹敵するものがある。因みに右の割引歩合は目下四々から六々見當、手形期限は四ヶ月位迄、同國では引受手形の不渡は他の近東諸國のやうに多くはないと自慢するのを聞いた。埃及のやうに有價證券の擔保貸付は多く行はれない。商品擔保の貸付は原則として許されてゐないといふ。

一九三四年に入つて同地には始めて三菱と鐘紡とが一人宛出張員を置くやうになつた。既に日本商品は遺憾なく同地には紹介濟であり、且埃及にも近うので、有名な彼等 Shrewd な Syrian Merchants の間に入つて活躍するには餘程の經驗と規模を必要とするであらう、因みに同國の通用語は Arabic 及 French である。

目下同國の High Commissioner は前の東京大使 Martel 氏であるが、同氏の就任來政府の經濟的施設は著しく積極的となり、其成績も見るべきものありといふ。同地には本邦領事館はない、佛蘭西人の Soulet とする人が名譽領事をしてゐる。

(アレキサンドリア出張所詰書記 藤崎義幸稿)

終